

2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算概要

アキレス株式会社（コード番号：5142 東証プライム市場）

2025年11月12日

目次

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）業績
2. 2026年3月期 業績予想
3. 中期経営計画進捗状況

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）業績

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）業績 – 連結損益計算書

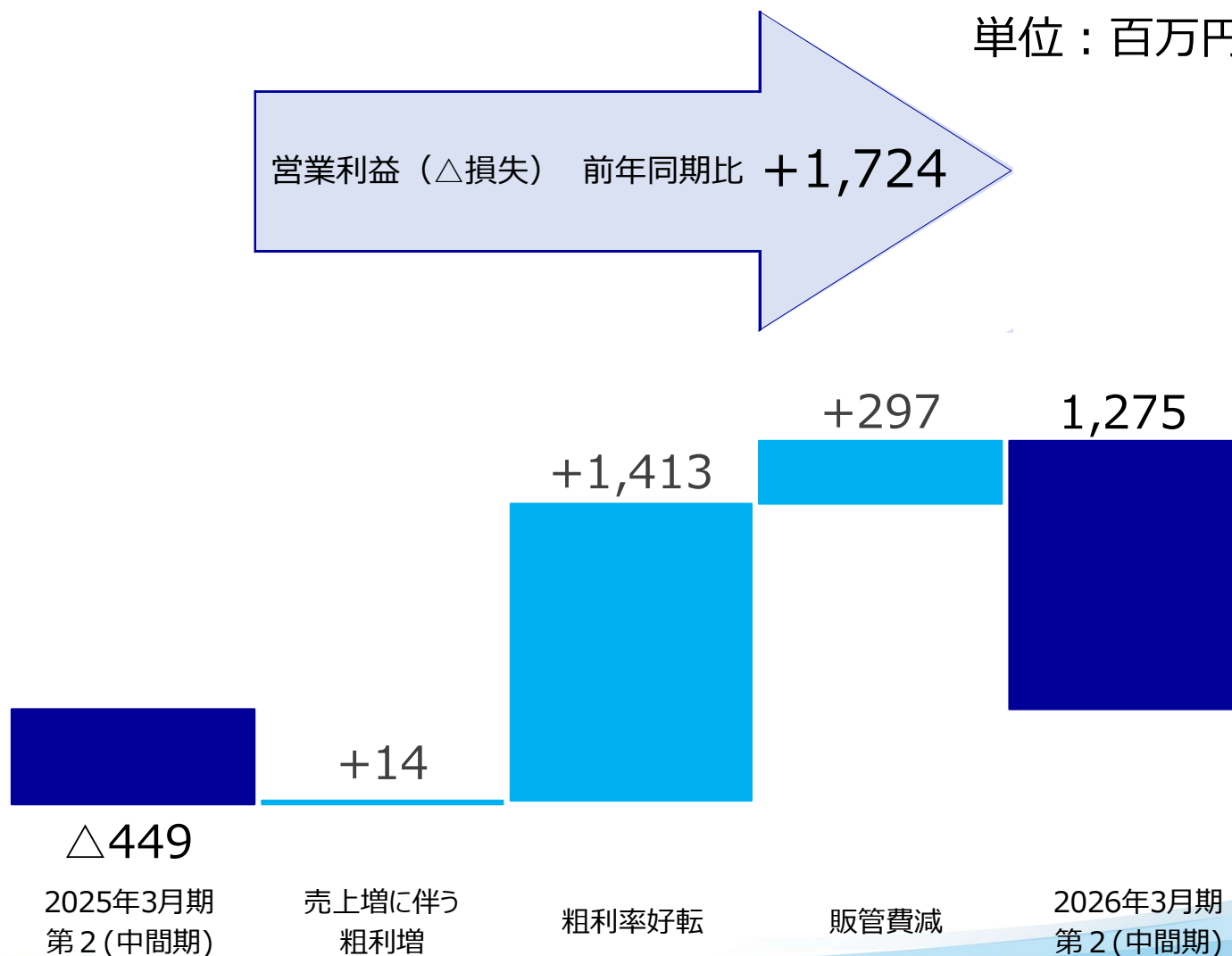
- 売上高は、海外子会社の財務諸表の換算レートが円高に推移したことやシューズの厳しい競争環境の継続といった減少要因がある中で、フィルムのライフサイエンス分野とエクステリア分野向け、工業資材の半導体ウェハー搬送用及び製造工程用の部材が伸長し増収
- 営業利益は、生産性の向上（コストダウン）、経費削減の徹底、価格改定の継続的な推進等により黒字転換
- 営業利益に受取配当金74百万円や持分法による投資利益67百万円等の営業外損益を含めた経常利益は1,480百万円

（単位：百万円）

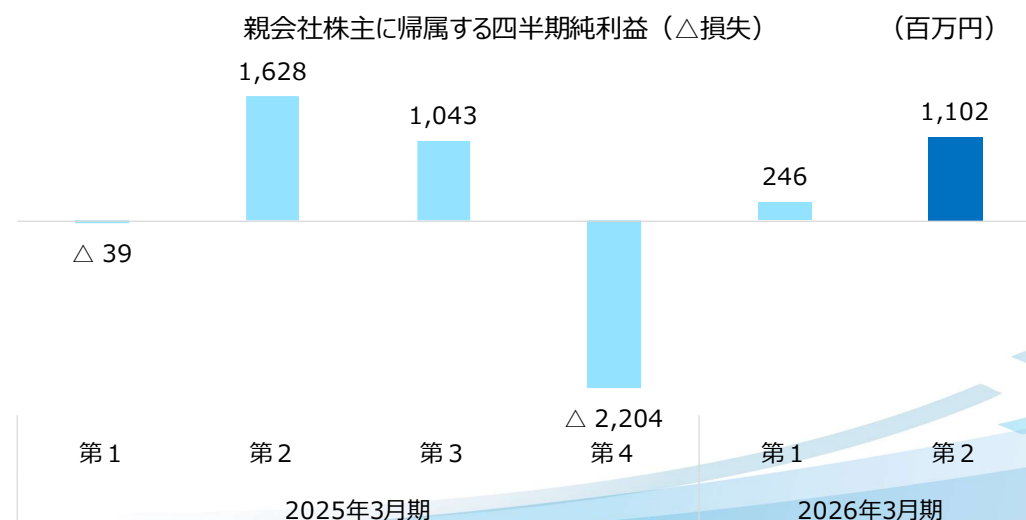
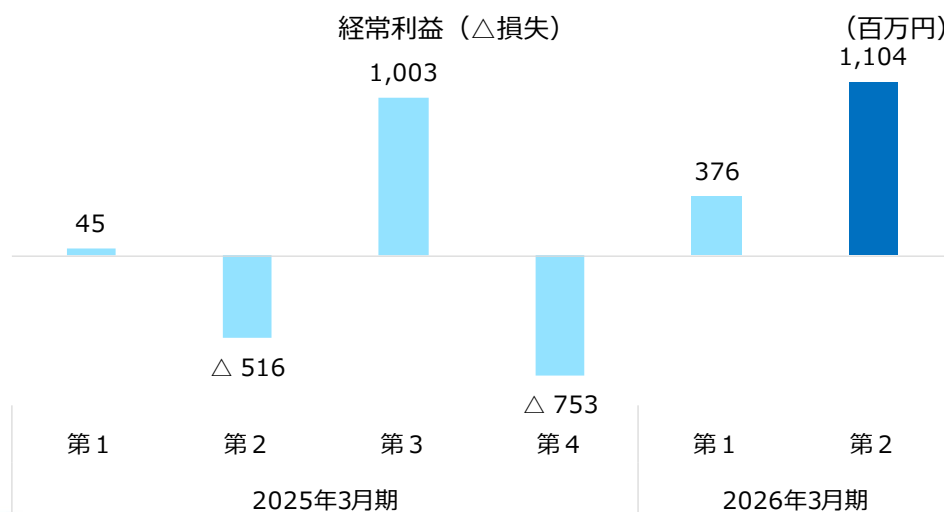
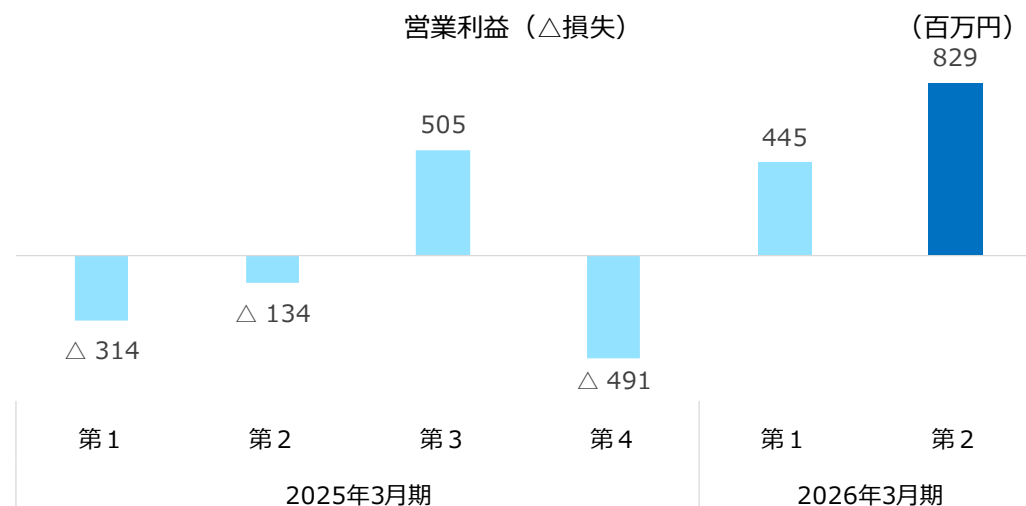
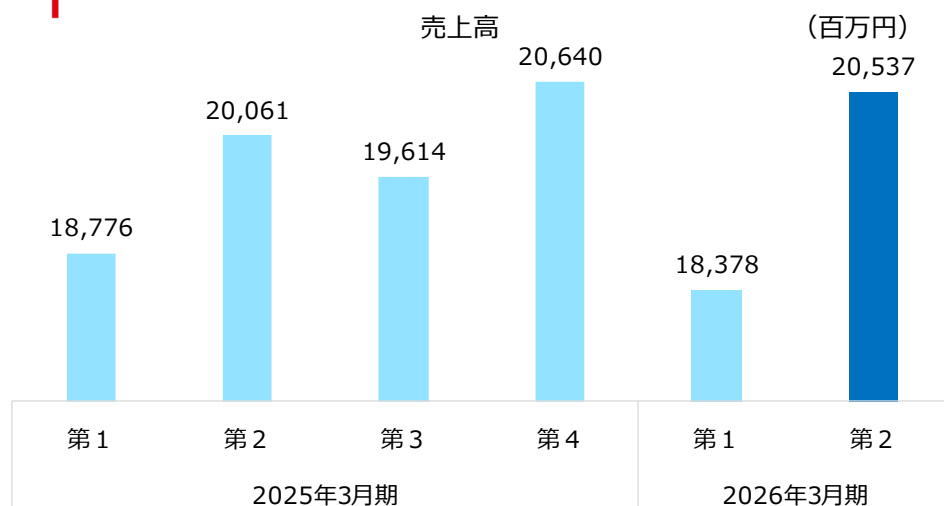
	2025年3月期		2026年3月期		前年同期比		8/7予想 第2（中間期）	予想比 増減額
	第2（中間期）	売上比	第2（中間期）	売上比	増減額	増減率		
売上高	38,838	—	38,915	—	77	0.2%	39,500	△ 584
売上総利益	6,934	17.9%	8,361	21.5%	1,427	20.6%		
販売費及び一般管理費	7,383	19.0%	7,086	18.2%	△ 297	△ 4.0%		
営業利益（△損失）	△ 449	△ 1.2%	1,275	3.3%	1,724	—	600	675
経常利益（△損失）	△ 471	△ 1.2%	1,480	3.8%	1,951	—	300	1,180
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,588	4.1%	1,349	3.5%	△ 239	△ 15.1%	150	1,199
1株当たり 中間純利益（円）	112.42		98.73		△ 13.69		10.98	

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）業績 - 営業利益の増減分析

単位：百万円



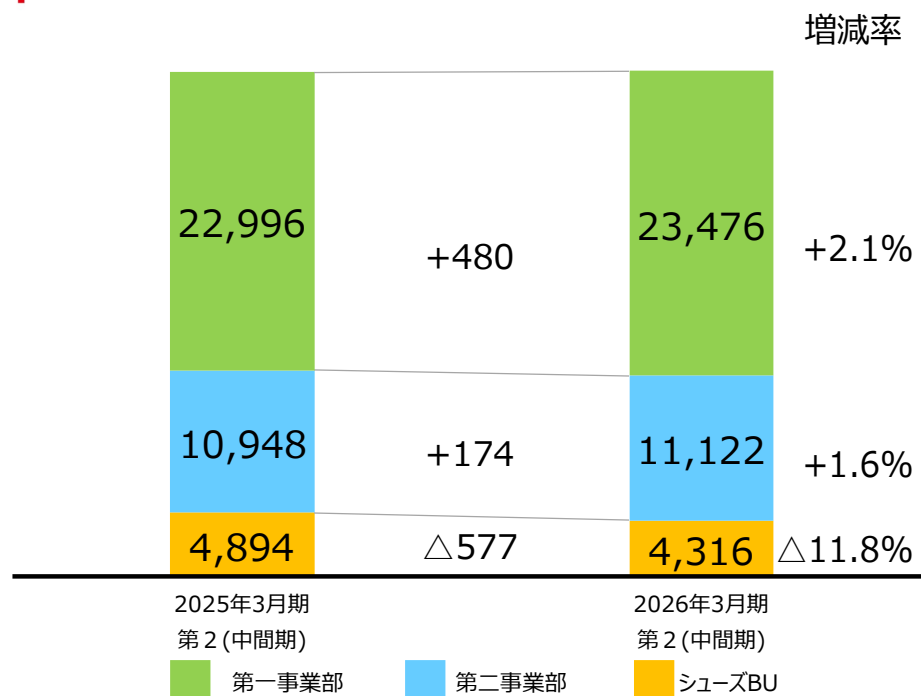
1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）業績 – 四半期別推移



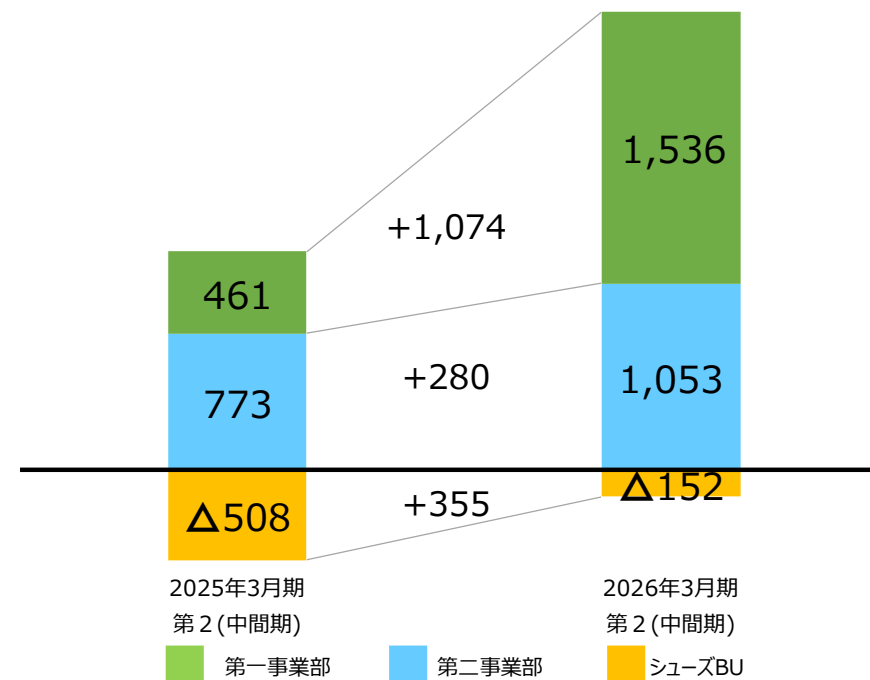
1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）業績 – セグメント情報

売上高：百万円

セグメント利益(△損失)：百万円



- 第一事業部は、車輛資材とウレタンが日系自動車メーカーの生産減少の影響を受け減収となったものの、フィルムのライフサイエンス分野とエクステリア分野向けや工業資材の半導体関連部材が伸長し増収
- 第二事業部は、防災対策商品が国内販売の苦戦により減収となったものの、断熱資材、建装資材が堅調に推移し増収
- シューズBUは、ランニングシューズブランド「BROOKS(ブルックス)」は好調に推移したものの、その他のブランドは厳しい競争環境の継続により減収



- 第一事業部は、増収及び生産性の向上（コストダウン）による粗利増や償却費負担の減少等により増益
- 第二事業部は、増収による粗利増や販売費の削減等により増益
- シューズBUは、販売価格の見直しやコストダウン、販売費の削減に努めたことにより損失額が縮小

1. 2026年3月期 第2四半期（中間期）業績 – 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 第2	前期末比 増減
流動資産	45,720	45,753	33
有形固定資産	20,244	19,630	△613
無形固定資産	274	302	28
投資その他の資産	13,266	13,635	369
資産合計	79,504	79,322	△182
流動負債	29,161	28,807	△354
固定負債	11,006	10,906	△100
負債合計	40,168	39,713	△454
純資産	39,336	39,608	272
負債・純資産合計	79,504	79,322	△182
自己資本比率	49.5%	49.9%	0.4%
一株当たり純資産(円)	2,878.18	2,898.19	20.01

増減の主な内訳

・ 売上債権 300
・ 棚卸資産 228
・ 現金及び預金 △ 389

・ 建物及び構築物 △ 339
・ 建設仮勘定 △ 212

・ その他流動負債 △ 168
・ 未払金 △ 93
・ 未払法人税等 △ 91

・ 利益剰余金 1,076
・ その他有価証券評価差額金 476
・ 為替換算調整勘定 △ 1,095

2. 2026年3月期 業績予想

2. 2026年3月期 業績予想 – 8月7日公表値から修正

- 売上高は、フィルムのライフサイエンス分野を中心に伸長が続くと想定し、前回予想を据え置き
- 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、原材料価格・エネルギーコストの影響や米国の関税政策の影響、為替レート的大幅な変動など先行き不透明な状況が継続することが見込まれるが、2026年3月期第2四半期（中間期）の業績等を踏まえて、前回予想を上回る見通し

（単位：百万円）

	2026年3月期 前回予想 (8/7)	修正額	2026年3月期 今回予想 (11/12)	2025年3月期 実績	前期比 増減額
売上高	81,000	0	81,000	79,093	1,906
営業利益（△損失）	1,500	300	1,800	△436	2,236
経常利益（△損失）	1,300	450	1,750	△220	1,970
親会社株主に帰属する 当期純利益	800	650	1,450	427	1,022
配当金	30円 (期末)		30円 (期末)	20円 (期末)	

3. 中期経営計画進捗状況

3. 中期経営計画進捗状況

2025/5/12「中期経営計画－FY25～FY27－」より再掲

【2030年度に目指す姿】

企業
理念

「社会との共生」＝「顧客起点」

「社会との共生」と「顧客起点」を共に重要な価値と位置づけ、
持続可能な社会の実現に貢献し、社会全体の幸福度を高めていく

2030年度に
目指す姿
(Vision2030)

アキレスグループは、社員一人ひとりの好奇心、多様な能力、
ユニークなアイデア、ひらめきを大切にし、様々なテクノロジーを
組み合わせたソリューションで社会に貢献する

世界に、驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにする
『グローバル ソリューション プロバイダー』を目指す

中期経営計画
(FY25～FY27)

全社戦略①：選択と集中の徹底 … 事業の位置づけに応じた経営資源の最適配分

全社戦略②：新たな価値の創造 … アイデアでテクノロジーを掛け合わせた価値創造

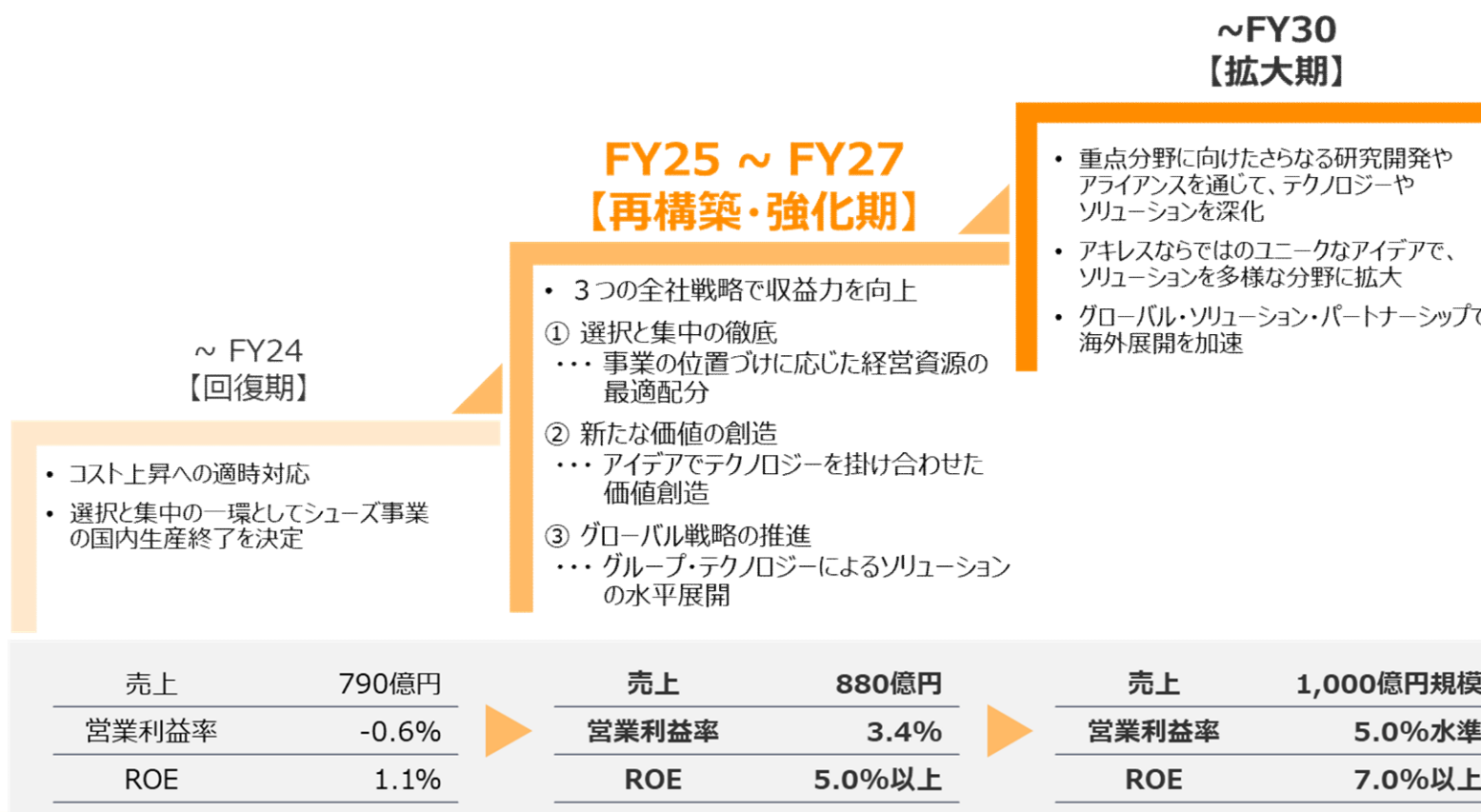
全社戦略③：グローバル戦略の推進 … グループ・テクノロジーによるソリューションの水平展開

3. 中期経営計画進捗状況

2025/5/12「中期経営計画－FY25～FY27－」より再掲

【中期経営計画の位置づけ】

- 今次中期経営計画は、3つの全社戦略を通じた【収益力の再構築・強化】を目指す
- さらに、Vision2030に向けた基盤確立期間と位置づけ、潜在ニーズにアプローチするソリューション力を強化する



3. 中期経営計画進捗状況

2025/5/12「中期経営計画－FY25～FY27－」より再掲

【中期経営計画の全体像】

- 3つの全社戦略と、事業基盤の高度化やサステナビリティ経営の推進を通じて、収益力を再構築・強化する

中期経営計画 FY25-FY27

収益力の再構築・強化



3. 中期経営計画進捗状況【主な取り組み事例】

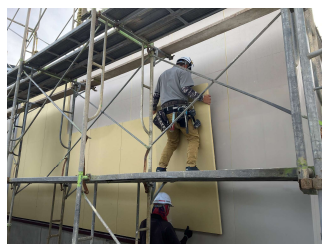
3つの全社戦略

① 選択と集中の徹底

- 半導体製造工程用フィルムにリソースを傾注
AI特需・データセンター新設需要への製品対応
- 倉庫、工場など鉄骨造向けの断熱ボードの
拡販
高断熱化ニーズに対応した製品「QDパネル」を投入
- 不採算品種の改廃及び規格統合による
コストダウンを推進



(工業用フィルム)



(QDパネル施工風景)

② 新たな価値の創造

- 半導体分野での非接触搬送システム製品の投入
(当年度下期)
ウエハー非接触搬送ニーズの高まりに対応する製品群の拡張
- 事業部内ワーキンググループを発足し、B U横断シナジー
による新商品創出を促進

③ グローバル戦略の推進

- 北米拠点での医療分野向け設備の2026年本格稼働
北米を中心とした需要増を見据えてアキレスUSAの製造ラインを拡充



(医療用フィルム)

3. 中期経営計画進捗状況【主な取り組み事例】

事業基盤の高度化

- 人事総務本部を組織改編、オフィスセンターを設立し、多様な働き方に対する制度拡充及び各種研修を通じた人材開発など人的資本経営を推進
- 工場競争力強化に向けた生産ソリューション本部を設立し、生産プロセスの最適化、自動化・デジタル化を推進
- イノベーション技術本部を設立し、競争力・生産性向上のための設備開発、生産DXを推進



(人材開発研修)

サステナビリティ経営の推進

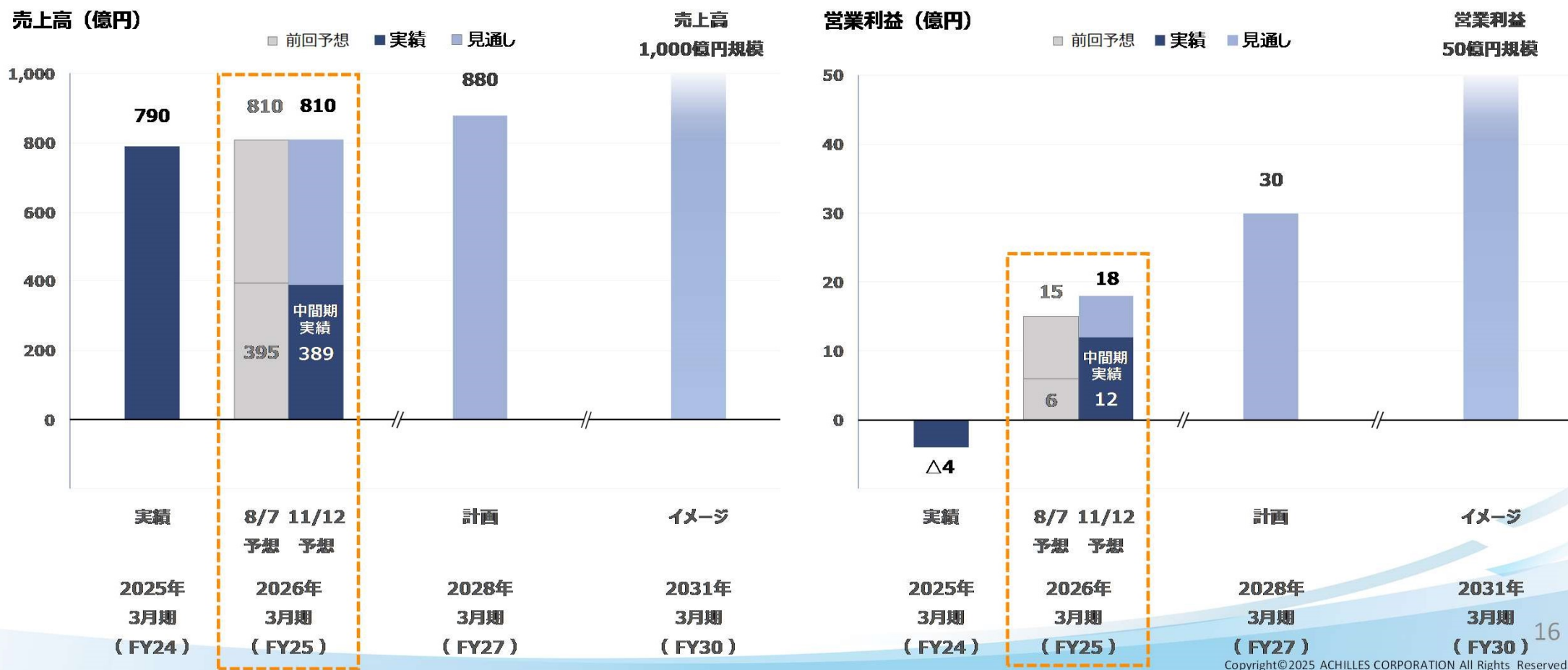
- 連結ベースでのスコープ3排出量の実績と削減量を公表
- 災害発生時のBCP対策製品等、社会的課題解決型製品のラインナップ拡充
- 資本市場との対話に向け、IR・経営企画本部を新設、IR委員会を開催



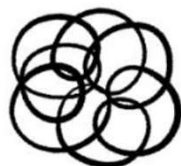
(BCP対策製品)

3. 中期経営計画進捗状況【経営目標】

- 中間期の業績について、売上高は389億円、営業利益は生産性の向上(コストダウン)、経費削減の徹底、価格改定の継続的な推進等に努めたことにより12.7億円
- 通期の業績予想について、売上高は前回予想を据え置き、営業利益は前回予想を上回る見通し
⇒ 通期業績予想を修正 営業利益 前回予想 15億円 → 今回予想 18億円 (+3億円の上方修正)



モヤッと を スカッと に



新しいアキレスが！

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

<お問い合わせ>

アキレス株式会社 IR・経営企画本部

<https://www.achilles.jp/contact/iri/>